

## トルコ語のアスペクト<sup>1</sup>

菅原 睦

(1) アイハン氏はもう来た。

Ayhan Bey çoktan gel-di.  
アイハン氏 もう 来る-PAST

トルコ語では、直接経験の過去 (-DI 過去)<sup>2</sup>と間接経験の過去 (-miş 過去) とが区別されるのに対し、過去と現在完了は通常区別されない。

(2) アイハン氏は(もう)来ている。

Ayhan Bey gel-miş bulun-uyor.  
アイハン氏 来る-PART いる-PRES

*gelmiş* はここでは完了の形動詞であり、文字通りには「来た状態にある」。なお形動詞には直接経験と間接経験の区別はない。この表現は、過去の動作とその結果の存続とを明示的に表わすものであるが、その使用頻度は高いとは言えない。<sup>3</sup> 実際上は(1)と同じ過去形の文を用いるか、もしくは場所を表わす名詞句を述語とする *Ayhan Bey*

<sup>1</sup> 本稿の作成にあたり Metin Balpınar 氏 (岡山大学大学院) および Aydın Söylemez 氏 (本学特任外国人教員) の御協力を得ることができた。両氏に対して深く感謝したい。むろん、誤りはすべて菅原の責任である。

<sup>2</sup> 以下、大文字は子音の同化や母音調和による交替 ( $D = d/t; K = k/g; l = il/ü/ü; A = e/a$ ) を示す。-DI 過去はトルコ語による文法では「明確過去時 *belirli geçmiş zaman*」, 「目撃過去時 *görülen geçmiş zaman*」などと呼ばれる。一方近年出版された詳細な文法書である Göksel - Kerslake (2005:79, 541) は -DI を「完了(相) perfective」の接尾辞とし、過去時制・完了アスペクト・中立的モダリティ(直接知識)の3つを同時に表わすものとして記述している。また Johanson (1994:254) は -DI 形を -Intraterminal, -Postterminal として特徴付けている。

<sup>3</sup> 例えば、トルコ語における完了(perfect)を論じている Arslan-Kechriotis (2006) は、結果を表わす完了について述べた箇所(pp.257-261)でこの形式に触れていない。なお同論文中には、-miş 過去形を用いた *Ayakkabım su almış*. 「私の靴が(雨のせいで)水を吸った[ことに気付いた]」という文が「結果の状態に焦点をあてる」という指摘がある。この点を考慮すれば同じ文は日本語の「靴が水を吸っている; 水を吸ってしまっている」に相当すると言うことができる。一方 Tuncoku - Hayaşi (1989:155) には日本語の「～してしまう」を説明する際に *-miş bulunuyor* を用いた例が見られる: 「最終電車は十分前に行ってしまいました。」 *Maalesef son tren on dakika önce gitmiş bulunuyor*).

*burada*. 「アイハン氏はここに (いる)」のような文で表現することが多い。なおいくつかの動詞では、現在形 *-(I)yor*<sup>4</sup> がちょうど日本語のテイル形のように「結果の状態」を表わすように見えることがある。例: *otur-uyor* 「すわっている (すわった状態にある)」(すわる-PRES). cf. 過去形 *otur-du* 「すわった」(すわる-PAST). しかしこれに対しては、状態動詞 *otur-*「すわっている」(to be sitting)と動作動詞 *otur-*「すわる」(to sit down)との違いとして扱うのが妥当と考えられる。<sup>5</sup>

(3) アイハン氏はまだ来ていない。

Ayhan Bey henüz / daha / hâlâ gel-me-di.  
アイハン氏 まだ 来る-NEG-PAST

「まだ～していない」に相当する特別な形式はない。通常は過去形の否定で表わされる。ただし(4)を参照。

(4) アイハン氏はまだ来ない。

Ayhan Bey hâlâ gel-mi-yor.  
アイハン氏 まだ 来る-NEG-PRES

インフォマントによれば、*hâlâ* 「まだ」と現在形の否定という組み合わせは、次のような状況で可能であるという: A が B にそばに来るように呼んだが、B は来ない。その状況で A は C に対し、'*Buraya gel. dedim ama hâlâ gelmiyor.* 『『ここに来い』と言ったのに (B は) まだ来ない』』と言うことができる。

(5) アイハン氏はもうすぐ来る。

Ayhan Bey birazdan gel-ecek / gel-ir.  
アイハン氏 もうすぐ 来る-FUT/来る-AOR

未来の事柄は未来形 *-(y)AcAK* または中立形 *-(I/A)r* (超越形, アオリスト形) で表わされる。大まかに言って、前者は「予定」を、後者は「見込み」を表わす場合に用いられる。

<sup>4</sup> *-(I)yor* はトルコの学校文法では「現在時 *şimdiki zaman*」を表わすとされる。これに対し Göksel - Kerslake (2005:77, 542)は *-(I)yor* を「未完了(相) imperfective」の接尾辞としている。また Johanson (1994:254)は *-(I)yor* 形を +Intraterminal, +Prägnant と特徴付けている。

<sup>5</sup> この現象は、文法書としては知る限り Göksel - Kerslake (2005:334-335)で初めて取り上げられた。

(6) あっ、アイハン氏が来た。

Aa, Ayhan Bey gel-iyor / gel-di.

INT アイハン氏 来る-PRES / 来る-PAST

インフォマントによれば、こちらに向かっている（まだ到着していない）のに気付いたという場合には現在形 *geliyor* がより適切であるという。むしろ同じ状況でも、既に到着したものと話者が見なしていれば過去形 *geldi* も可能である。

(7) おととい、アイハン氏が来た。

Evvelki gün Ayhan Bey gel-di.

おととい アイハン氏 来る-PAST

(8) おととい、アイハン氏は来なかった。

Evvelki gün Ayhan Bey gel-me-di.

おととい アイハン氏 来る-NEG-PAST

(9) 私はそのりんごをもう食べた。

Ben o elma-yı çoktan ye-di-m.

私 その りんご-ACC もう 食べる-PAST-1SG

(10) 私はそのりんごをまだ食べていない。

Ben o elma-yı henüz / daha / hâlâ ye-me-di-m.

私 その りんご-ACC まだ 食べる-NEG-PAST-1SG

(3)の場合と同様、ここでも動詞の過去形・否定が用いられる。「まだ食べない」に当たるのは未来形・否定を用いた *Ben o elmayı henüz / daha yemeyeceğim*.となる。

(11) あの人は今（ちょうど）そのりんごを食べています／食べているところです。

O şimdi elma-yı yi-yor.

彼 今 りんご-ACC 食べる-PRES

進行中の動作は現在形で表わされるのが普通である。改まった表現として動名詞 *-mAk* に位置格接尾辞を付けた *yemektedir* 「食べている」がある (*-Dir* はここで断定・

陳述のモダリティーを表わす).

(12) 窓が開いている／窓が開いていた.

Pencere açık. (窓が開いている)

窓 開いている

Pencere açık-tı. (窓が開いていた)

窓 開いている-PAST COP

ここでは形容詞 *açık* 「開いている」が用いられる。「開いていた」の場合には過去のコンピュータ *idi* (接辞化すれば-(y)DI) を伴う。動詞 *birak-* 「放置する」の受身の現在形を用いた *Pencere açık bırakılıyor.* は「窓が開けてある」に相当する。

(13) 私は毎日新聞を読む。

Ben her gün gazete oku-r-um / oku-yor-um.

私 毎日 新聞 読む-AOR-1SG / 読む-PRES-1SG

習慣的な動作は中立形または現在形で表わされる。前者が問題の動作を主語の習慣・特質として述べるのに対し、後者は単にその動作が毎日行われているという事実のみを表わすという違いがある。

(14) あなたは (あなたの) お母さんに似ている。

Siz anne-niz-e benzi-yor-sunuz.

あなた 母-POSS.2PL-DAT 似る-PRES-2PL

*benziyor* は動詞 *benze-* 「似る」の現在形。

(15) 私はその頃毎日学校へ通っていた。

Ben o gün-ler-de her gün okul-a gid-er-di-m / gid-iyor-du-m.

私 その 日-PL-LOC 毎日 学校-DAT 行く-AOR-PAST COP-1SG / 行く-PRES-PAST COP-1SG

過去の習慣的な動作は、中立形あるいは現在形と過去のコンピュータとの組み合わせによる。

(16) 私はイスタンブルに行ったことがある。

Benim İstanbul'-a git-miş-liğ-im var.  
私の イスタンブル-DAT 行く-PART-lik-POSS.1SG ある

*gitmişliğim* 「私の行ったこと」は、完了の形動詞 *gitmiş* に名詞化接辞 *-lik* が付加されたものと、行為者を示す所有接尾辞 1 人称単数 *-im* 「私の」とからなっている。これは経験の有無を表わす場合の専用形式であるが、*-DI* 過去形を用いて *İstanbul'a hiç gittiniz mi?* 「イスタンブルに行ったことがありますか (カツテ行キマシタカ)」 – *Evet, gittim.* 「はい、行ったことがあります (行キマシタ)」のように表現することも広く見られる。

(17) バスは動き出した。

Otobüs hareket et-me-ye başla-dı.  
バス 動く-VN-DAT 始める-PAST

動作の開始は、動名詞 *-mA* の与格と動詞 *başla-* 「始める」で表わされる。

(18) 昨日彼女はずっと寝ていた。

O dün bütün gün uyu-yor-du.  
彼女 昨日 全 日 眠る-PRES-PAST COP

(19) 私はそれをちょっと食べてみた。

On-un tad-in-a biraz bak-tı-m.  
それ-GEN 味-POSS.3SG-DAT 少し 見る-PAST-1SG

「試行」を表わす特別なアスペクト形式はない。「食べてみる」は上の例のように「そのの味を見る」という形で表現されるのが普通である。一方、動名詞 *-mA* の対格と動詞 *dene-* 「試す」との組み合わせによる *Yeşil çay içmeyi denedim.* 「緑茶を飲んでみた」(飲ムコトヲ試シタ) のような表現が可能である。

(20) あの人はそれをみんなに分け与えた。

On-u herkes-e bölüştür-dü.  
それ-ACC 皆-DAT 分配する-PAST

「多くの対象に対する動作」を表わす特別なアスペクト形式はない。

(21) さあ、私たちは行くよ！

Haydi biz gid-iyor-uz / git-ti-k!

INT 私たち 行く-PRES-1PL / 行く-PAST-1PL

他のいくつかの言語と同様、トルコ語にも過去形によって「差し迫った未来の動作」を表わす用法がある。典型的な例として、誰かに呼ばれて「今（すぐ）行くよ」と返答する場合の *Geldim*. (私ハ来タ) をあげることができる。ただしこの用法はこれまで文法書などでほとんど記述されておらず、今後より詳しく検討される必要がある。<sup>6</sup>

(22) 地球は太陽の周りを回っている。

Dünya Güneş-in etraf-ın-da dön-er / dön-üyor.

地球 太陽-GEN 周囲-POSS3SG-LOC 回る-AOR / 回る-PRES

「恒常的な真理」は中立形で表わされるが、現在形を用いることもできる。

(23) あの木は今にも倒れそうだ。

O ağaç neredeyse yıkıl-mak üzere.

その 木 ほとんど 倒れる-VN POSTP

近い未来の動作は、動名詞 *-mAK* + 後置詞 *üzere* で<sup>7</sup> 表わされる。

(24) 私は危うく転ぶところだった。

Ben az kal-sım düş-üyor-du-m.

私 少し 残る-IMP3 転ぶ-PRES-PAST COP-1SG

---

<sup>6</sup> Menges (1995:130)に次のような指摘がある：In ancient as in modern languages, the perfectum definitum may occasionally be used not as a perfect tense and therewith referring to the past, but as referring to the present or even the future: (...) In Osman, just before one presents somebody with something, one can say: *bunu saña hädijä verdim* “I present you with this”. なおここで Osman はトルコ語を指し、その例文は現在の正書法では *Bunu sana hediye verdim*.となる (*ver-di-m* = 与える-PAST-1sg).

<sup>7</sup> 後置詞 *üzere* は「～の上に」、「～のように」などの意味をもつが、現在のトルコ語では動名詞 *-mAK* に後続して近い未来の動作や目的（「～するために」）、条件（「～するという条件で」）を表わすのがその主な用法となっている。

*az kalsın / az kaldı* (残る-PAST) は「もう少しで、危うく」を意味する。

(25) 明日お客が来るので、パンを買い (ておい) た。

Yarın misafir gel-eceğ-i için ekmek al-dı-m.

明日 客 来る-PART-POSS.3SG POSTP パン 買う-PAST-1SG

「~しておく」に相当する特別な形式は存在しない。<sup>8</sup>

(26) バザールに行った時に、この袋を買った。

Bazar-a git-tiğ-im zaman bu çanta-yı al-dı-m.

バザール-DAT 行く-PART-POSS.1SG 時 この 袋-ACC 買う-PAST-1SG

(27) バザールに行く時に／行く前に、この袋を買った。

Bazar-a gid-er-ken bu çanta-yı al-dı-m. (行く時に、行く途中で)

バザール-DAT 行く-AOR-CONJ この 袋-ACC 買う-PAST-1SG

Bazar-a git-meden önce bu çanta-yı al-dı-m. (行く前に)

バザール-DAT 行く-CONV 前 この 袋-ACC 買う-PAST-1SG

(28) 彼がバザールでこの袋を買ったのを知っていた。

On-un bazar-dan bu çanta-yı al-dığ-ın-ı bil-iyor-du-m.

彼-GEN バザール-ABL この 袋-ACC 買う-PART-3SG-ACC 知る-PRES-PAST  
COP-1SG

トルコ語の従属節は、一般に非定形動詞（動名詞、形動詞、副動詞）を述語として構成されるため、主節とは異なるテンス・アスペクト体系を示す。(27)の *giderken* 「行く時に」は動詞中立形 *gider* に時の接続詞 *iken* が接辞化して付加されたもので、全体で副動詞のような働きをしている。また同じく(27)の *gitmeden önce* に見られる *-meden* は「~せずに」の意味をもつ否定副動詞で、この構造は言わば「行かない前に、行かずに前もって」に相当すると考えることができる。

<sup>8</sup> 日本語の「~しておく」を *hazır et-* 「準備する」などを用いて説明的に表現した例が *Tuncoku - Hayaşi* (1989:153-154)に見られる。

## 略号

ABL 奪格	PART 分詞
ACC 対格	PAST 過去
AOR 中立 (形)	PAST COP 過去のコンピュータ
CONJ 接続詞	PL 複数
CONV 副動詞	POSS 所有接尾辞
DAT 与格	POSTP 後置詞
FUT 未来	PRES 現在
GEN 所有格	SG 単数
IMP 命令	VN 動名詞
INT 間投詞	1 1人称
LOC 位格	2 2人称
NEG 否定	3 3人称

## 参考文献

- Arslan-Kechriotis, Z. Ceyda 2006. ““Perfect” in Turkish”, *Turkic Languages*, 10, pp. 246-270.
- Göksel, Aslı and Kerslake, Celia 2005. *Turkish. A Comprehensive Grammar*, Routledge, London.
- Johanson, Lars 1994. “Türkeitürkische Aspectotempora”, in Rolf Thieroff and Joachim Ballweg, eds., *Tense Systems in European Languages*, Max Niemeyer Verlag, Tübingen: 247-266.
- Menges, Karl H. 1995. *The Turkic Languages and Peoples. An Introduction to Turkic Studies*, 2nd, revised edition, Harrassowitz Verlag, Wiesbaden.
- Nilsson, Birgit 1991. “Turkish semantics revisited”, in Hendrik Boeschoten and Ludo Verhoeven, eds. *Turkish Linguistics Today*, E. J. Brill, Leiden: 93-112.
- Taylan, Eser Erguvanlı ed. 2001. *The Verb in Turkish*, John Benjamins, Amsterdam.
- Tuncoku, A. Mete and Hayaşi, Tooru 1989. *Türkçe Konuşanlar için Japonca Dil Bilgisi* (『トルコ語を話す人のための日本語文法』), Biblio Limited, Tokyo.